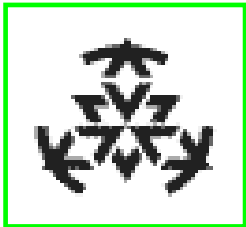


新設校の”校章”策定について

1. 校章策定の必要性

大名小学校、簗子小学校、舞鶴小学校が統合され、舞鶴中学校と施設一体型の小中連携教育校となるあたり、校章の検討が必要となります。

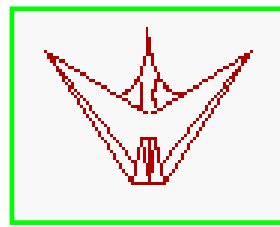
従来の四校の伝統と目標を継承し、福岡市をリードするにふさわしい小中連携校の校章を決める方法を考えます。



福岡市立大名小学校



福岡市立簗子小学校



福岡市立舞鶴小学校



福岡市立舞鶴中学校

2. 校章策定の考え方

◆ 小学校については、大名小・簗子小・舞鶴小の3小学校が一つとなるため、新たな校章の策定が必要となります。

◆ 小学校・中学校の校章を別々とする場合，中学校については、新たな校章を策定する必要はありません。



◆ 小学校と中学校の校章を統一した場合，次の効果が考えられます。

- 新しく生まれる小中連携校の象徴とする。
- 9ヵ年を通して小中連携校の児童，生徒，教師であることを意識させる。
- 新設校として一体感を持たせる。



施設一体型小中連携校として、小中学校統一の新たな校章を策定する

3. 新設校について考えられるキーワード（校章策定の参考として）

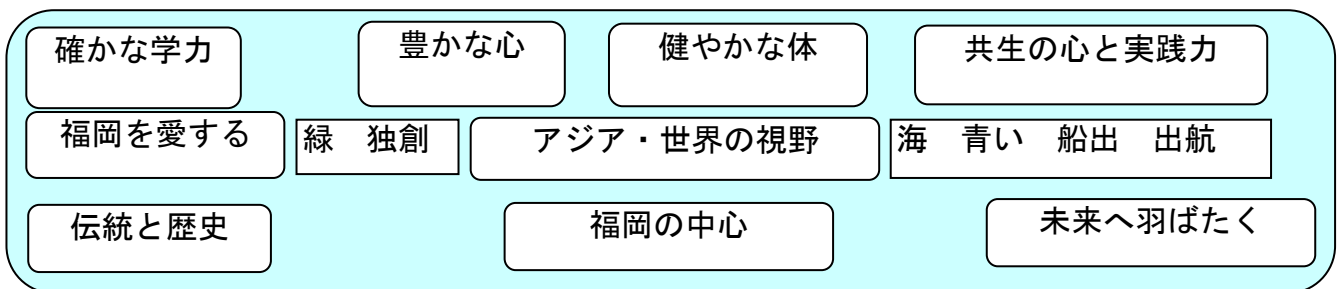
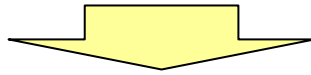
新生”舞鶴小・中学校”の教育目標「国際都市福岡の中心に位置する学校に学ぶ児童生徒としての自覚や誇りを持ち、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性や社会性、国際性を育て、将来に夢と希望をもって、たくましく生きる人間の育成」である。

○ 確かな学力・豊かな心・健やかな体等の生きる力を身につけ、社会の一員としての自覚をもって行動できる子ども

○ 郷土福岡の自然・歴史・伝統・文化を愛し、守り伝える子ども

○ アジア・世界の中の福岡という視点をもって様々な価値観を積極的に理解し、他者や社会、自然や環境とともに生きることのできる子ども

Keyword



■ 舞鶴中校区統合校づくりに関するアンケート調査結果（第3回開校準備委員会から）

【小学校低学年】

問3 「こんな学校になったらいいな」

みんなが仲がよい学校
 きれいな学校
 体育館や運動場が広い学校
 花や緑がいっぱいある学校
 エレベーターがある学校
 プールが室内にある学校



【小学校高学年・中学校】

問3 「こんな学校になったらいいな」

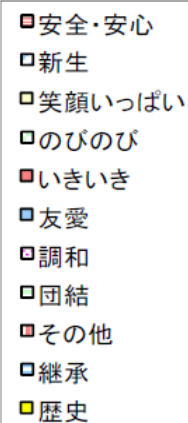
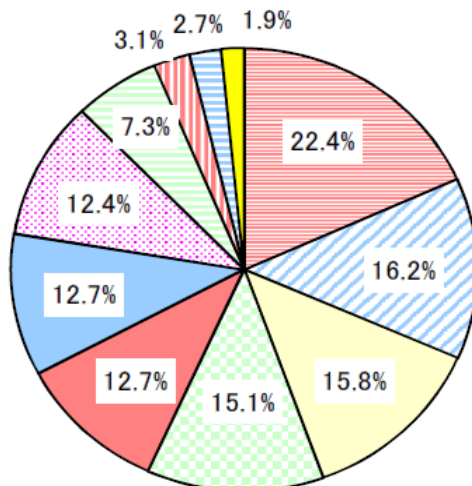
みんなが仲が良くて、楽しい学校
 勉強もスポーツも頑張る学校
 花や緑がいっぱいある学校
 エアコンや冷水器など設備が整っている学校
 きれいで快適な学校
 明るく笑顔が絶えない学校



【保護者】

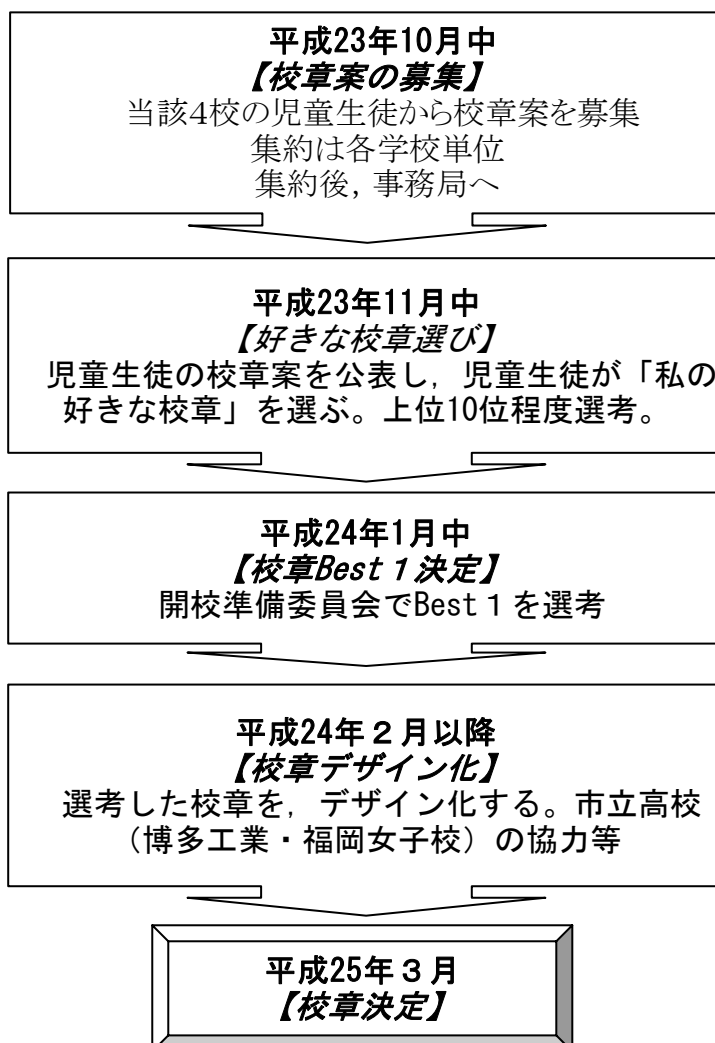
問1 統合校のイメージ

保護者の統合校のイメージは、「安全・安心」が2割弱で最も多く、「新生」・「のびのび」・「笑顔いっぱい」と続いている。
その他の意見は、「先進」・「充実」・「希望」・「つながり」・「理想」・「きれい」など。



4. 校章策定までのスケジュール

- ◆ 児童生徒のアイデアを活かす
- ◆ 開校準備委員会は、児童生徒の発想を補助・支援する



【参考資料】

1. ”校章”とは

「校章（こうしょう）とは、学校を象徴する記章。学校への所属を表したり、他校との識別のために用いられる。

我が国に於いて、現行法上、学校設置の要件として校章や校歌を準備する旨の法規等は存在しない。しかし、慣習的に、学校には、同じ学舎で、目的を一つとして学習に励むものの心の繋がりを高めるために、校章があり、校歌を唱ってきている。

校章には、その学校が目指す教育目標が具象化されていたり、校名をデザイン化したものなどが主流である。

小中連携校として、これまでの大名小学校、簗子小学校、舞鶴小学校、そして舞鶴中学校の歴史をふまえ、新しい営みをふみだす舞鶴小学校、舞鶴中学校に校章を決めることは、統合した児童生徒の新しい学校に対する理解や自覚を持たせるためにも価値があると考えます。

2. ”校章”デザインへの意味づけ

福岡市立学校の”校章”を調べてみました。

校章に、学校名を具象化したもの。

小学校では、入学時のシンボル”さくら”の中に、校名をデザインしたもの。

福岡市の市章に、校名をデザインしたもの等が多く見られる。

統廃合を経て、新しい学校の由来や願いをデザインしたものなど多種多様である。

大名小学校



福岡市の市章の三辺に、「大名」の「大」の文字を配している。

簗子小学校



福岡市の市章の中央に「簗子」の「簗」の文字を配している。

舞鶴小学校



「舞鶴」の鶴の姿を折り鶴をモチーフにデザイン。

舞鶴中学校



【他校の事例】

照葉小・中学校



緑は照葉樹を意味し、葉枝の交わりは小中の連携を、九つのとがり文様は、学びのペンと九カ年を表す。

博多小学校



博多部の文化の象徴「山笠」のかき縄と「どんたく」のしゃもじとで、福岡市市章に見立て、中央に校名の博多の「博」を配している。

新設校の”校歌”策定について

1. 校歌策定の必要性

校歌が唱われる理由としては、この学校で児童生徒が何を目標にして、どう生きていくかを象徴的に歌唱するものとする考え方が多いようです。

この点から、新しい教育を軸に、新たな歩みを刻み始める小中連携校にとって、校歌に託すそれぞれの”おもい”の象徴として、校歌の作成を検討します。

2. 校歌策定の考え方

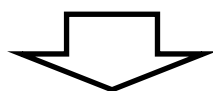
◆ 小学校については、大名小・箕子小・舞鶴小の3小学校が一つとなるため、新たな校歌の策定が必要となります。

◆ 小学校・中学校の校歌を別々とする場合、中学校については、新たな校歌を策定する必要はありません。



◆ 小学校と中学校の校章を統一した場合、次の効果が考えられます。

- 新しく生まれる小中連携校の象徴とする。
- 9ヵ年を通して小中連携校の児童、生徒、教師であることを意識させる。
- 新設校として一体感を持たせる。



① 施設一体型小中連携校として小中学校統一の新たな校歌を策定する。

② 小学校の校歌は新たに作成し、中学校の校歌は現行のままとする。



3. 校歌策定方法

【候補①】 専門家への依頼

作詞及び作曲作業は高い専門性が必要であるため、専門家へ依頼する

【候補②】 校区の方への依頼

舞鶴中校区に居住している、若しくは由来する方で、音楽活動をしている等で作詞・作曲に長けた方に依頼する

【候補③】 市立高校の活用

市立福岡西陵高校の管弦楽部は全国レベルであり、それを活用する。

【候補④】 音楽教員の活用

市立小・中学校の音楽教員等で作詞・作曲に長けた者を活用する。

【参考資料】

1. ”校歌”とは

校歌（こうか）は、学校の学生・生徒・児童や教職員が学校行事の際に唱う歌のこと。

広義にはその学校公認の歌、学校にまつわる歌（応援歌・寮歌など）もすべて校歌ともいえるが、日本での一般的な用例としては、広義の意味を示す言葉としては「学校歌」という括りを用い、それらの学校歌の中でも特に最もその学校を代表するに相応しい歌を「校歌」と称してその他の一般的な「学校歌」とは区別するのが通例である。

中国や韓国などの東アジア諸国でも、日本と共通する校歌の概念がある。

我が国に於いて、現行法上、学校設置の要件として校章や校歌を準備する旨の法規等は存在しない。しかし、慣習的に、学校には、同じ学舎で、目的を一つとして学習に励むものの心の繋がりを高めるために、校歌等を唱ってきている。

2. ”校歌”への意味づけ

曲と歌詞 [編集]

メロディは作られた時代や作曲者などによって違いは様々であり、歌詞も同様である。

だが、メロディと異なり、歌詞については一定の類型が存在する。よく歌われる内容として、次のようなものが挙げられる。

- ◆学校の所在地周辺の自然や地理，風土，具体的な地名など
- ◆学校の標語や校訓，教育理念，校風など
- ◆学校や学校の所在地の歴史
- ◆社会や未来への貢献，新しい社会の建設などを語るモットーやスローガン
- ◆学校名

3. 舞鶴中学校区における各学校の校歌

(大名小学校)

- 一、波美しい 博多湾
みどり明るい 荒津山
窓にながめて 都とともに
伸びゆくわれら 楽しいわれら
心も強く 身も強い
われらは 大名小学生
- 二、徽章に光る 大の字の
理想めざして たゆみなく
磨く知徳と 鍛えるからだ
元気なわれら はりきるわれら
心も強く 身も強い
われらは 大名小学生
- 三、たがいにはげみ 手をくんで
遠く世界のはて 照らす
文化かがやき 栄える日本
きずくはわれら 未来のわれら
心も強く 身も強い
われらは 大名小学生

(簗子小学校)

- 一、玄界の玄界の風うけて
港の息吹き 今高く
たくましい町々
われら 簗子
立ち上がる 簗子小学校
- 二、荒津山 荒津山
緑 濃く
潮風 光る 学舎(まなびや)に
明るく学ぶ
われら 簗子
進みゆく 簗子小学校
- 三、地 を確(しか)と 地を確(しか)と
踏みしめて
輝く空に 胸をはり
希望は 高く
われら 簗子
奮(ふる)いたつ 簗子小学校

(舞鶴小学校)

- 一 那の津の海の 潮の香に
茂る平和の 森静か
その名もゆかし 舞鶴の
城の名 おいし まなびやは
学ぶ我らの ほこりなり
- 二 はえある歴史 うけつぎて
ここにつどえる ひな鶴や
明るき光 もとめつつ
善意のひとみ 輝くは
進む我らの 力なり
- 三 玄界灘の 荒波を
こえて 世界に続く空
輝くつばさ うちひろげ
朝風きって はばたくは
あすの 我らの 姿なり

(舞鶴中学校)

- 一、さみどりの真澄める空に舞いあそぶ
鶴の姿のうるわしき名にこそ誇り
眉匂う雛こぞりて大いなる翼育てん
ああわれら舞鶴中学校
- 二、学び舎の窓をあければ見はるかす
博多の海のたゆみなき潮の満ち干を
朝夕の範と定めてひたすらに道に励
まん
ああわれら舞鶴中学校
- 三、立ち並ぶ薨の波の虹と映ゆ
文化の街にとりどりの花の蕾と
諸共に今培いてふるさとの明日に飾
らん
ああわれら舞鶴中学校